令和７年度　基本評価調書	所管部局	環境生活部	所管課	スポーツ振興課

施策名	次世代アスリートの発掘・育成	施策コード	0314
政策の柱	歴史・文化・スポーツ	政策体系コード	3(6)C
関連重点戦略計画等	北海道創生総合戦略、知事の基本政策	事務事業数	9
特定分野別計画	第３期北海道スポーツ推進計画		
SDGs		総合判定	やや遅れている

予算額（千円）	R5	424,717千円	R6	354,240千円	R7	292,011千円

施策目標	・オリ・パラ競技について、将来有望なアスリートのジュニア期からの発掘・育成を行う。 ・将来有望でありながら、経済的な理由により競技活動を継続することが困難なジュニア選手への支援を行う。 ・国際的または全国的な規模のウィンタースポーツ競技大会で、どさんこ選手が活躍できるように、競技力の一層の向上を図る。 ・障がい者スポーツの競技力向上のための支援を行う。
現状と課題	（競技人口の拡大） ・競技人口のすそ野の拡大を図るとともに、本道の競技力をさらに向上させ、その水準を維持していくことが重要。 ・子どもがスポーツに継続して親しむことができる機会の確保とともに、子どもの競技スポーツへの参加拡大と競技力向上に向けた方策を併せて行うことが重要。 ・障がい者スポーツを行う団体は、活動の基盤が弱く、団体間の連携が課題。

<主な取組>

今年度の取組	（競技人口の拡大） ・有望選手（小中学生）の発掘育成 ・北海道スポーツ協会が行う選手強化等に対する支援 ・障がい者スポーツのすそ野拡大と選手発掘 ・北海道障がい者スポーツ協会が行う障がい者スポーツ活動の活性化への支援
実績と成果	（競技人口の拡大） ・有望選手（小中学生）の発掘育成 ⇒競技経験の有無に関わらず有能な選手を発掘するため、新規タレント生の選考会を開催、タレント生認定後は、組織的かつ計画的に育成するプログラムを実施 ・北海道スポーツ協会が行う選手強化等に対する支援 ⇒将来的に国際大会でメダル獲得を狙える有望なジュニア選手に対し、育成強化合宿を実施 ・障がい者スポーツのすそ野拡大と選手発掘 ⇒パラスポーツの体験会・測定会を開催し、体験会369名、測定会20名が参加 ・北海道障がい者スポーツ協会が行う障がい者スポーツ活動の活性化への支援 ⇒障がい者スポーツ活動を行う団体への助成制度について支援を実施

参考HP①	スポーツ局スポーツ振興課のＨＰ	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ssk/
参考HP②		
参考HP③		

令和７年度　基本評価調書	【3(6)C_0314】次世代アスリートの発掘・育成

<指標分析>　*成果指標の基準　要件(1)：アウトカム指標、要件(2)：「施策目標」や「現状と課題」に直結、要件(3)：総合計画等に掲げる指標*

成果指標①	増減方向	増加	単位	過年度①	過年度②	最新年度	最終目標	達成率	判定
本道出身のオリンピック・パラリンピック出場者数【暦年】			人	R3	R4	R6	R9	60.0%	D （80%未満）
			目標値	22	93	30	過去最高水準		
			実績値	29	60	18			

設定理由 *要件(1)(2)*	「次世代アスリートの発掘・育成」に係る取組の成果を測る指標として設定 目標値　夏季30人（オリ22人（2021年）、パラ8人（2016年））、冬季93人（オリ77人（1998年）、パラ16人（1998年）） なお、最終目標値は第3期北海道スポーツ推進計画における設定値を記載しているが、同計画の見直しに合わせて更新予定
公表時期	各大会開催前にJOC･JPC公表
根拠計画等　*要件(3)*	第3期北海道スポーツ推進計画

分析（主な取組と成果）

スポーツ競技力の水準向上のため、小中学生等のジュニア選手を対象にした合宿や選手強化等に対する費用の支援を実施。
指標の性質上、成果が反映されるまでに数年を要するが、今後も継続して同様の取組を続けることが重要。

成果指標②	増減方向	増加	単位	過年度①	過年度②	最新年度	最終目標	達成率	判定
本道出身者のオリンピック・パラリンピックメダル総獲得数【暦年】			個	R3	R4	R6	R9	77.8%	D （80%未満）
			目標値	7	15	9	過去最高水準		
			実績値	7	8	7			

設定理由 *要件(1)(2)*	「次世代アスリートの発掘・育成」に係る取組の成果を測る指標として設定 目標値　夏季9個（オリ6個（2021年）、パラ3個（2016年））、冬季15個（オリ8個（2022年）、パラ7個（1998年）） なお、最終目標値は第3期北海道スポーツ推進計画における設定値を記載しているが、同計画の見直しに合わせて更新予定
公表時期	各大会終了時
根拠計画等　*要件(3)*	第3期北海道スポーツ推進計画

分析（主な取組と成果）

スポーツ競技力の水準向上のため、小中学生等のジュニア選手を対象にした合宿や選手強化等に対する費用の支援を実施。
指標の性質上、成果が反映されるまでに数年を要するが、今後も継続して同様の取組を続けることが重要。

成果指標③	増減方向		単位	過年度①	過年度②	最新年度	最終目標	達成率	判定
								－	－
			目標値						
			実績値						

設定理由 *要件(1)(2)*	
公表時期	
根拠計画等　*要件(3)*	

分析（主な取組と成果）

成果指標④	増減方向		単位	過年度①	過年度②	最新年度	最終目標	達成率	判定
								－	－
			目標値						
			実績値						

設定理由 *要件(1)(2)*	
公表時期	
根拠計画等　*要件(3)*	

分析（主な取組と成果）

成果指標⑤	増減方向		単位	過年度①	過年度②	最新年度	最終目標	達成率	判定
								－	－
			目標値						
			実績値						

設定理由 *要件(1)(2)*	
公表時期	
根拠計画等　*要件(3)*	

分析（主な取組と成果）

令和７年度　基本評価調書	【3(6)C_0314】次世代アスリートの発掘・育成

<取組分析（連携状況、緊急性・優先性）>

連携状況	（課題） ・スポーツ競技力の水準向上や小中学生等のジュニア選手育成のため、選手が在籍する学校やスポーツ団体、競技団体との連携が必要。 ・パラリンピックなどの国際大会に向けて、多様な主体の参画のもと、将来有望なパラアスリートを競技団体と連携しながら、計画的かつ系統的に発掘・育成する仕組みを構築する。 （取組と成果） ・北海道スポーツ協会や学校と連携を図りながら育成を図っており、引き続き取り組む。 ・大学、病院、特別支援学校、競技団体、パラリンピアン等で実行委員会を組成し、各競技の体験会、体力測定会、セミナーを開催。日本パラスポーツ協会とも連携し、J-StarPROJECT北海道ブロックでの発掘、育成にも取り組んでいる。

緊急性・優先性	（課題） ・アスリートの育成には時間を要することから、短期ではなく、中・長期的な目線で実施する必要がある。 ・東京2025デフリンピックが自国で開催されるため、パラリンピックだけではなく、広く障がい者スポーツの普及や発掘・育成に繋がる取組が必要。一過性ではなく継続して事業を行う必要がある。 ※デフリンピック：「デフ」は英語で「耳がきこえない」という意味で、「デフリンピック」はきこえない・きこえにくい人のためのオリンピック （取組と成果） ・世界ジュニアカーリング選手権で活躍するまでの選手の育成に成功しており、また、当該ステージで活躍しながら、現役タレント生の指導にも協力してもらう等、後輩の育成にも貢献している。 ・障がい者スポーツ、デフスポーツの競技団体と連携し、体験会等の普及啓発を通じて、すそ野拡大に努めた。

<取組分析（その他統計数値等）>

その他統計数値等①	過年度①	過年度②	最新年度
	R4年度	R5年度	R6年度
北海道タレントアスリート発掘・育成事業 NF強化指定選手輩出数（カーリング）（人）	9	8	19

（課題）

発掘した選手は、PF（都道府県競技団体）強化指定選手から、NF（中央競技団体）強化指定選手と順調にパスウェイしているが、国際競技力が向上している中で、国内においては少子化、冬季スポーツ離れが加速していることから、今後の競技者の確保や、より質の高いプログラムの提供が課題となる。

（取組状況や実績、今後の見込みなど）	判定
北海道の選手が国際大会で活躍できるよう、地方、中央競技団体や関係団体等と連携して、ジュニア期からの選手の発掘・育成を行い、本道の競技力向上に向けた取り組みを実施している。地域タレントからナショナルタレントへの育成パスウェイを構築することができており、中央競技団体の成果にも繋がっている。	a

その他統計数値等②	過年度①	過年度②	最新年度
	R5年度	R6年度	R7年度
北海道パラアスリート発掘プロジェクト 体験会・測定会参加者数（人）	315	362	369

（課題）

パラスポーツの多くはPF（都道府県競技団体）がないため、地域での育成環境が整えることが難しい。またコロナ禍で活動が制限されていた期間が長く、年代に応じて必要な経験や運動が不足しており参加者の運動能力などが停滞している。

（取組状況や実績、今後の見込みなど）	判定
・市町村を通じて各学校にイベント開催を周知。 ・R4年度から北海道教育庁特別支援教育課と連携し、当該課はオブザーバーとして実行委員会に参加し、共催でパラ発掘プロジェクトを実施。	a

その他統計数値等③	過年度①	過年度②	最新年度

（課題）

（取組状況や実績、今後の見込みなど）	判定

令和７年度　基本評価調書	【3(6)C_0314】次世代アスリートの発掘・育成

<一次政策評価（実施機関が行う政策評価）>　※「指標判定」と「その他統計数値等」はそれぞれ指標等の平均を算出

指標判定	D※	連携状況	○	総合判定	やや遅れている
		緊急性・優先性	○		
		その他統計数値等	a		

■判定が「D」の成果指標
（本道出身のオリンピック・パラリンピック出場者数【暦年】,本道出身者のオリンピック・パラリンピックメダル総獲得数【暦年】）

	対応方針番号	内容
今後の対応方針	①	世界で活躍するトップアスリートを目指すことができる、有望選手（小中学生）の発掘を行い、これまでの育成プログラムを継続していくとともに、新たな育成プログラムの開発を検討
	②	
	③	

<二次政策評価（知事が行う政策評価）>

二次政策評価意見	【施策目標の達成状況】 総合計画に掲げる、本道のスポーツ競技人口の裾野の拡大とともに、競技力を更に向上させ、その水準を維持していくため、どさんこ選手の強化と指導者の充実、次世代アスリートの発掘・育成を推進することが重要であり、総合計画の政策目標の実現に向け、取組の一層の推進を検討すること。

前年度の二次政策評価意見（区分）
総合計画に掲げる、 誰もが、それぞれの体力や年齢、性別、障がいの有無にかかわらずスポーツに親しむことができる環境づくりのため、する・みる・ささえる・しるといった多様な形でのスポーツ参画人口の拡大が重要であり、総合計画の政策目標の実現に向け、取組の一層の推進を検討すること。

<一次政策評価を踏まえた対応状況（３月末時点）>

	対応方針番号	内容
翌年度の対応状況	①	世界で活躍するトップアスリートを目指すことができる、有望選手（小中学生）の発掘を行い、これまでの育成プログラムを継続していくとともに、修了生を育成プログラムの講師として招へいし、TID生を効果的に育成するためのプログラム内容を充実させる。
	②	
	③	

<二次政策評価意見への対応状況（３月末時点）>

二次政策評価意見への対応状況	アスリートの育成には時間を要することから、短期ではなく、中・長期的な目線で実施する必要があり、引き続きどさんこ選手の強化と指導者の充実に向けた事業を継続するほか、次世代アスリートの発掘・育成を推進していく。

令和７年度　事務事業評価調書

施策名	次世代アスリートの発掘・育成	施策コード	0314

整理番号	重複施策	経費区分	事務事業名	事務事業概要	課・局室名	前年度からの繰越事業費（千円）	事業費（千円）	うち一般財源	執行体制 本庁	執行体制 出先機関	執行体制 人工計	フルコスト（千円）	一次政策評価 対応方針番号	一次政策評価 方向性	二次政策評価意見	３月末時点における対応 二次評価意見への対応状況	３月末時点における対応 翌年度の方向性
0912		一般	北海道マラソン・ソウル国際マラソン交流事業費	北海道マラソン大会の実施及び規模拡大や国際化に向けたシンポジウムの開催やソウル国際マラソンとの相互交流事業の実施、次年度以降の規模拡大に向けた関係機関との協議、調整等	スポーツ振興課	0	250	250	0.8	0.0	0.8	6,790					
0913		一般	国民体育大会派遣費補助金	(公財)北海道スポーツ協会が行う国民体育大会への北海道選手団派遣事業に対する補助事業	スポーツ振興課	0	101,104	101,104	0.2	0.0	0.2	102,739					
0914		一般	スポーツ競技力向上推進事業費補助金	(公財)北海道スポーツ協会が実施する選手強化事業等に対する補助事業	スポーツ振興課	0	71,895	71,895	0.2	0.0	0.2	73,530					
0915	0313	一般	スポーツ団体活動費補助金	本道スポーツの振興と指導者の養成を図るため、(公財)北海道体育協会が行う事業に対する補助事業	スポーツ振興課	0	4,534	4,534	0.3	0.0	0.3	6,987					
0916		一般	障がい者スポーツ振興費	障がい者の体力維持や残存能力の向上を図るため、（公財）北海道障がい者スポーツ協会が行うスポーツ大会等の事業に対して補助する。	スポーツ振興課	0	33,392	16,990	0.6	0.0	0.6	38,297			【事務事業のコスト】 関与団体に対する補助金等は、引き続き、道の施策推進上の必要性を検証し、意義が薄れた補助金、負担金及び交付金の縮減や、委託契約に係る競争性の導入の検討を行っていくこと。	北海道障がい者スポーツ協会は、道からの補助により専門的な知見のもと、障がい者スポーツに係る様々な施策を実施している。パラリンピックでの道内出身選手の活躍等、障がい者スポーツ振興への気運が高まっている中、障がい者の社会参加の気運を狭めるような対応は困難であることから、補助金を継続する。	
0917		一般	全国障害者スポーツ大会派遣事業費	全国障害者スポーツ大会に選手団を派遣する経費を（公財）北海道障がい者スポーツ協会へ補助する。	スポーツ振興課	0	25,861	25,861	0.2	0.0	0.2	27,496			【事務事業のコスト】 関与団体に対する補助金等は、引き続き、道の施策推進上の必要性を検証し、意義が薄れた補助金、負担金及び交付金の縮減や、委託契約に係る競争性の導入の検討を行っていくこと。	北海道障がい者スポーツ協会は、道からの補助により専門的な知見のもと、障がい者スポーツに係る様々な施策を実施している。パラリンピックでの道内出身選手の活躍等、障がい者スポーツ振興への気運が高まっている中、障がい者の社会参加の気運を狭めるような対応は困難であることから、補助金を継続する。	
0924		一般	北海道パラスポーツ連携促進事業	健常者スポーツと障がい者スポーツの連携を促進、障がい者スポーツの裾野拡大と競技力向上に取組むとともに、地域への定着を図る。	スポーツ振興課	0	8,499	939	0.7	0.0	0.7	14,222					
0910	0313	一般	ジュニアスポーツアスリート強化育成事業費	本道の競技力強化を図るため、ジュニア世代に特化した強化合宿の実施に係る経費を（公財）北海道スポーツ協会に対して補助する。	スポーツ振興課	0	24,626	24,626	0.3	0.0	0.3	27,079					
0925	0313	一般	スポーツをする・みる・ささえる促進事業費	北海道スポーツ推進条例に基づく各種施策を実施する。	スポーツ振興課	0	21,850	7,276	2.9	0.0	2.9	45,558	①	改善（指標分析）	【施策目標の達成状況、事務事業の有効性】 ※基本評価調書 <二次政策評価>参照 【事務事業のコスト】 関与団体に対する補助金等は、引き続き、道の施策推進上の必要性を検証し、意義が薄れた補助金、負担金及び交付金の縮減や、委託契約に係る競争性の導入の検討を行っていくこと。	【施策目標の達成状況、事務事業の有効性】 ※基本評価調書 <二次政策評価意見への対応状況>参照 【事務事業のコスト】 北海道障がい者スポーツ協会は、道からの補助により専門的な知見のもと、障がい者スポーツに係る様々な施策を実施している。パラリンピックでの道内出身選手の活躍等、障がい者スポーツ振興への気運が高まっている中、障がい者の社会参加の気運を狭めるような対応は困難であることから、補助金を継続する。	改善
計						0	292,011	253,475	6.2	0.0	6.2						